



妻北っ子だより

令和4年度 7月号 文責 校長

「有難（ありがた）いこと」

ある月曜日。いつものように歩道橋下で、子ども達を迎えていると、ある子どもが、

「校長先生、ゴミ置き場の近くの横断歩道に、ゴミが散らばっています。」
と、教えてくれました。



行ってみると、ネコかカラスに袋を破られ、新聞や生ごみの一部が散乱していました。まだまだこれから多くの子どもたちがやってくる時間帯です。

歩道まで散らかっていたのを一か所に集めていたところ、交通指導員の方が登場。「先生、あとは私がするから、歩道橋下の安全指導に戻りなさい。」
と言われ、どこからともなく竹ぼうきを持ってこられて、掃除を始められました。

見通しのよいスクールゾーンになっているので、歩道橋下からでも片付ける様子うかがうことができます。途中から、近所の方も応援に出てこられて、私が校舎へ引き上げるころには、すっかりきれいになった様子でした。

私も手伝えばもう少し早く終わってたかな？と反省し、「子ども達を通るから」という思いできれいにしてくださった方々に感謝を覚えた出来事でした。

「友だちだから、当たり前」

これもある日の出来事。

土曜・日曜、ご家庭の居心地のよさに浸ってしまった子どもたちにとって、学校への登校は、時として大きなストレスのひとつになるのかもしれない。



歩道橋寸前で足が止まる、歩道橋を渡り切って上り坂を見て止まる、児童玄関まで来たのに校舎に入れない等々、足取りの重い子の様子は様々です。

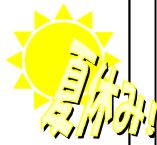
それを見かねたのか、先に登校していた4年生の男の子が「校長先生、あの子、ぼくの友達だから付き添っていいですか？」
と、歩道橋の登り口で 保護者の方と足を止めている低学年の子のところまで行き、手を取って一緒に歩こうとしていました。

そのサポートもあってか、歩道橋を渡り切り児童玄関へ向かうことができました。「困っていること」に気づき、「こうするといいかもしれない」と考え、実際に行動できる子の姿を目の当たりにし、心がほっかりとした出来事でした。

行事

7月 1日 (金) 参観日
7月 3日 (日) PTA奉仕作業
7月 4日 (月) 全校朝会
7月 11日 (月) 夏休み図書貸出
7月 18日 (月) 海の日
7月 20日 (水) 1学期終業日

7月 21日 (木) 個人面談開始
(希望者)



8月 1日 (月) 登校日
8月 9日 (火) 学校閉庁期間 (~15日)
8月 25日 (木) 2学期始業日
8月 31日 (水) 防災訓練 (地震想定)

9月 1日 (木) 参観日
9月 11日 (日) PTA奉仕作業
9月 12日 (月) 運動会結団式
9月 19日 (月) 敬老の日
9月 23日 (木) 秋分の日

「できる・わかる」を増やす

6月16日(木)・17日(金)に5年生の宿泊学習の引率者の一人として参加しました。

5年生といえば、誕生して10~11年が経過し、学校生活において次の学校のリーダーとしての役割を期待される学年です。



1泊2日という期間ですが、「時計を見て行動すること」「ルールやマナーを守ること」「仲間と助け合うこと」「宿舎の皆さんに感謝すること」「今回の経験をこれからの生活に活かそうとすること」等、多くのねらいをもって臨んだところです。

実施計画に沿った体験活動はしっかり消化できました。また、退出時の各部屋の片付けについては、宿舎の方々からお褒めの言葉をいただくくらい立派でした。

「初めて」がゆえに、残念ながら「時と場(例:食堂・浴室・宿舎内)に応じた言動」「グループ内でトラブルが起きた場合の対処の仕方」「自ら考えよりよい行動をする」など、課題となる部分も、見受けられました。

良かった部分は継続してできるように、課題となった部分は改善できるように、今後の学習内容に「モデルを示す」「場面を想定する」「よいと思った行動をやってみて振り返る」といった活動を取り入れ、全体指導だけでなく個別の支援を行っていきます。

「できるようになってほしいこと」「わかるようになってほしいこと」は、一朝一夕では身に付かないこと、幼い頃からの段階的・系統的な指導支援が必要であることを改めて痛感した引率機会(15年ぶり)でした。

「コロナは収束していない」

賛 否 両 論

早くも梅雨明け。熱中症予防のため、登下校時、体育等において一定の距離があり、会話がなかった場合の活動時は、マスクをしなくてよい(はずしてよい)ことになりました。

とは言え、県内全体の感染者数は毎日のように発表されており、6月29日には、360人以上に跳ね上がっています。

学校では、状況に応じて活動や時間に制約をかけて、対策を講じることができそうですが、学校外での活動、特に外出先における大人数での交流・会食等については、まだまだ注意が必要です。

「コロナは収束していない」という認識を皆さんと共有し、夏休みを迎えることができたかと考えています。